

学年通信 学年目標決定！！

二年生学年目標

共・考・動

第二学年

2024.5.1 No.2

学年目標を発表しました。

「きょう・こう・どう」「キョウ・コウ・ドウ」音だけを聞いた印象はどうでしたか。「???」だった人もいたのではないのでしょうか。はたまた、「おお!!」だったのでしょうか。

昨年の学年目標は「優・想・動～人にやさしく、人を想い、人のために動く。」でしたね。今年度は、「共に考え、さらに、考えて行動する（行動できる）。」人になってほしいという願いが込められています。また、やるべきことを後回しにせず、「今日、行動しよう」という意味もあります。

2年生の終わりには、一回りも、二回りも大きく成長したみんなに会えることを楽しみにしています。さあ! 「今日、行動」しましょう!



春季大会 頑張りました。

いろいろなチームで精一杯、力を合わせて頑張りました。また、自分の試合が終わった後も、チームメイトの試合を一生懸命に応援する姿もあり、とても爽やかな気分になりました。

女子テニス 個人の部 4位：

団体の部 4位

男子テニス 個人の部 3位 4位 7位

団体の部 4位

ソフトボール 優勝

授業参観ありがとうございました。



場の力

2年生に進級してから1ヶ月が経ちました・・・

新しいクラスや新しい授業にも慣れてきた頃だと思います。今、自分がいる「場所」が、自分にとってのどのようなものになっているのか、少し考えてみてもいい時期かもしれませんね。

ノーベル賞作家の大江健三郎さんは、『「自分の木」の下で』という作品の中で、「学校で学ぶ」ことの意味について述べています。健三郎さんの長男として生まれた光さんは、生まれつき脳に障害があり、「人間の言葉よりも先に野鳥の鳴き声を覚えた」そうです。父は、そんな息子を学校に通わせることに抵抗があったと述べています。森の中に建てた家で鳥の歌声を聞きながら家族で暮らしたいと。けれども、「特別支援学級」に入った光さんは、学校という場所で様々なことを学んでいきました。体の不自由な友達がトイレに行く手助けをし、助けてもらうことばかりだった家族の中では感じる事の出来なかった、人の役に立つということの喜びを感じる事が出来るようになりました。光さん自身も、友達と一緒に音楽について語り合うようになり、鳥の歌よりも人間の音楽のほうが自分にはよく分かる言葉だと気付いていったそうです。その後、光さんは、数多くの賞を受賞した作曲家になりました。

「光にとって、音楽が、自分の心の中にある深く静かなもの確かめ、他の人につたえ、そして自分が社会につながっていくための、いちばん役に立つ言葉です。それは、家庭の生活で芽生えたものでしたが、学校に行って確実なものとなりました。国語だけじゃなく、理科も数学も、体操も音楽も、自分を理解し、他の人たちとつながってゆくための言葉です。外国語も同じです。そのことを習うために、いつの世の中でも、子どもは学校へ行くのだ、と私は思います。

（大江健三郎『「自分の木」の下で』朝日新聞社（朝日文庫）2005年）

皆さんにとって学校や教室はどのような場所になっているでしょうか。この場所だからこそ学べることがたくさんあるはずですよ。一人ひとりが誰かの力になることに喜びを感じ、社会とつながっていくための「自分の言葉」を見つけることが出来るよう、自分のいる「場」を大切にしてください。

